



受験サプリ

教師が講座視聴し、指導案を作成。 課題だった授業力向上も可能に

— 博多高校(福岡・私立) —

取材・文／丸山佳子



右から
理事長・校長
八尋太郎先生
博多興志館・特進シリウス1年担任
数学科
久保裕介先生
博多興志館・準特進1年担任
国語科
城野貴恵先生
博多興志館部長
品川清先生

School Data	
創立1941年／普通科、看護科・看護専攻科	生徒数1321人(普通科男子459人、女子501人、看護科・看護専攻科は女子のみ361人)
進路状況(2014年度)普通科／大学進学72人、短大進学26人、専各進学129人、就職85人	福岡県福岡市東区水谷1-21
TEL 092-681-0331	URL http://www.hakata.ed.jp/hightschool

■「受験サプリ」の活用術

●博多興志館・特進シリウス1年(生徒数16人)で行われていた数学のAL型授業(久保裕介先生)

- 1 授業テーマ発表。考え方のヒントを先生が5分程度説明。
- 2 「受験サプリ」高1スタンダードレベルの確認テスト(4問程度)を5分で解く。問題はiPadで見て、解答を送信。
- 3 答え合わせと先生の解説後、全問正解者はハイレベル講座を視聴。誤答した場合は、例題説明がある講座を視聴。視聴時間は10分なので、倍速で講座を視聴する生徒も。



4 4人一組の班を作り、前半の学習内容を発展させた「受験サプリ」の確認テストを実施。約15分で話し合いながら解答を導き出し、板書をする。



5 板書された各班の解答を、生徒たちはiPadに保存。課外学習で発表を行うため、どの解答がわかりやすいか、班で話し合うように久保先生が指示し、50分の授業が終了。時間を短く区切って展開する授業は、集中できると生徒からも好評だ。



●ALの指導案作りと校内授業見学で、他教科を巻き込む

「これまで時間がかかったテスト作りも、今では『受験サプリ』のテストが活用できるので助かっています」と久保先生。ALの指導案を作り、他教科の先生に授業見学してもらうことで、国語科や理科でもAL型授業が始まったという。

●週3日の課外活用で、自学自習の習慣が定着

博多興志館の各クラスでは、週3日、朝と夕の課外学習で動画講座を活用中。到達度テストの振り返りや苦手分野の復習、シラバスに沿った講座やハイレベル講座の受講など、何を学ぶかは生徒の自由。自学自習の習慣が導入後半年で定着してきたようだ。



●講座視聴時間を発表し、生徒のやる気を想起



博多興志館の中でも、部活動をしている生徒が多いクラスでは、生徒に視聴を促す工夫も。「準特進」1年担任の城野貴恵先生は、生徒の講座視聴時間をグラフ化し、頑張った生徒にはカワイイシールを貼って生徒のやる気につなげている。

改革を進める中、同校では「勉強が苦手な子どもたちが学ぶ楽しさを実感できる教育を」と、早くからiPadや動画講座を導入してきた。しかしその効果的な活用方法は、長年の課題となっていた。「生徒に動画講座を与えただけでは、飽きてしまい、自学自習に結びつかない。学ぶ楽しさを助言する教師の力があってこそ

教師への先行導入で理解を深め、業務効率化と授業力向上を実現

この10年、次世代教育をテーマに改革に取り組んできた博多高校。現在は普通科と5年一貫教育の看護科・看護専攻科から成り、普通科には公務員養成、ITビジネス、調理・保育が選択できるキャリアデザインコースと、2012年に開設した進学コースの博多興志館がある。16年度は、定員10名に絞った「グローバル」クラスを博多興志館に新設。高い就職率だけでなく、進学実績でも注目されている。

博多興志館の生徒に「一斉導入した15年習熟度別の目標設定で「勉強が楽しい」の聲が増えた

活かせるのです。理想とするのは、デジタルとアナログのメリットを融合した教育。「受験サプリ」の導入は、それを形にするためでした」と八尋太郎理事長・校長は話す。「導入の決め手は、スタンダード、応用、ハイレベルまである講座が教師の授業力向上に役立つこと。そして、講座内の小テストを授業で活用できる、到達度テストで生徒の得意・苦手分野が把握でき、習熟度別学習や個別対応が容易になる、年間授業計画(シラバス)がデータ管理できるなど、業務の効率化が図れる点です。時間ができれば、教師も授業に力を注げます」と博多興志館部長の品川清先生。そこで同校では、教師に「受験サプリ」を先行導入。内容理解を深めたことが、その後のスムーズな活用につながったという。

度からは、授業前に教師が動画講座を視聴し、指導案を作成。動画講座を取り入れたAL型授業が行われるようになった。また同校では、生徒への導入と同時に到達度テストを実施。難関国立大学を目指す「特進シリウス」では、英数国の3教科をシラバスに反映して目標を明確化し、授業や課外学習で講座を活用。有名私大を目指す「準特進」では、到達度テストの結果から苦手克服目標を立て、「進学」では、中学の復習をしながら基礎学力をつけるなど、習熟度別授業に取り組んできた。さらに、4月に行った到達度テストを9月にも実施し、基礎学力の定着を確認して授業に活かす工夫もしている。「半年間で、到達度テストの平均点は確実に上がりました。クラスごとや3年間の目標を教室に貼り出すことで「やる気が出た」、課外学習で講座を視聴することで、「授業がわかり、楽しくなった」という生徒も増えています。これからの成果が楽しみです」と品川先生。